



帰国生の学校選び A to Z

●第15回●

英語と日本語での学習を両立させることが大切

長い夏休みも残り1カ月余りとなりました。米国の学校では8月下旬から9月初旬にかけて新年度が始まりますので、8月中旬頃からは現地校での学習の態勢を整える必要があります。長い夏休みには長期間一時帰国する子どもも目立ちますし、米国に残っていても日本語での学習を集中的に行っている子どもも多く、ともするとせっかく培った英語力が低下してしまい、現地校の新年度の学習につまづくこともあるからです。特に、滞米期間の短い子どもにはこのような傾向がありますので、現地校の新年度開始に備えて英語での学習に力を入れましょう。毎日の生活の中で英語を聞いたり話したりすることも心がけるといいですね。

新年度からは進級し、現地校での学習内容もより難しくなります。特に新年度から高校や中学に進学する場合には、学校生活が一変し、それに伴い日常生活も今までとは異なることとなります。課題の量が増えたり難しくなったりして、家庭での学習時間が増えることがあります。登校時間が早くなる一方で、クラブなどの課外活動が放課後長時間にわたって行われたり、週末にも活動があったりと、自宅で過ごせる時間が減少することもあります。このため毎年夏休み明けには補習校や学習塾の学習まで手が回らないという問題を抱える子どもがいます。現地校と補習校・学習塾の学習の時間配分を工夫して両立できるようにがんばりましょう。

しかし、帰国が迫っている場合には日本語での学習に手を抜くわけにはいきません。それどころか、今まで以上に日本語での学習時間を増やさねばなりません。帰国が迫っている場合には現地校の学習よりも日本語学習を重視しましょう。クラブなどの課外活動も無理する必要はありません。大半の帰国生中学・高校入試は日本語での学力を重視しています。現地校の成績や諸活動の記録も提出書類の一つですが、国語や算数・数学、英語などの学科試験の得点が合否の決め手になるからです。



執筆者：丹羽 筆人（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所アドバイザー／名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では補習校・学習塾にて帰国生を指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujeec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail nihs@ujeec.org Phone & Fax 855-669-9305 (名古屋国際)